わかやま子ども学総合研究センタージャーナル　No.1, pp.65-67, 2020

園内保育中での「総合体育」の取り組みについて

"Comprehensive Physical Education" Efforts During Childcare

中村　俊之

1997（平成 9）年度から実施されている和歌山信愛女子短期大学附属幼稚園における「総合体育」における取り組みの実践を報告するものである。本園の通常保育は 1 クラスに 3･4･5 歳児混合の縦割りクラスであるが、「総合体育」はクラスの枠を超えて同年齢の子ども達で編成して行っている。「総合体育」における取り組みのねらいや留意点、特徴などについて報告し、幼稚園教育要領における「5 領域」の観点から考察を行った。その結果「総合体育」は、平成 29 年告示の幼稚園教育要領の 5 領域全てにわたって関連性のあることが示された。

キーワード：幼児体育、幼稚園教育要領 5 領域、健康教育、保育内容総論

1　はじめに

1996（平成 8）年の秋に当時の和歌山信愛女子短期大学附属幼稚園園長であった Sr.大野ひとみ先生に呼ばれ、「うちの子ども達、園庭で走ってて直ぐにこける（転ぶ）し、立ちあがらずにずっと泣いているのよ。何とかならないものかしら。」と相談を受けたのが本園における「総合体育」のプログラムの始まりである。

外部委託による体操教室は、私立幼稚園を中心に各園の特色を打ち出すために当時から盛んに行われている取組みの一つである。専門性を持つ、主として男性指導者が行う体操教室の多くは目的が明確であり、例えば鉄棒の逆上がりや跳び箱の開脚飛びの指導、運動会の出し物の練習等が中心のプログラム構成となっている。保育の補完作用として体育の技術習得の向上が幼稚園からの要望（ニーズ）の多数を占める。しかしながら今回受けた園からの依頼は、「身体の安定力と強い精神力を養う」ことが主眼となるので事前に計画を立てる必要があった。また実際に体育指導する中で試行錯誤しながら基礎体力の向上及び体力増進が中心となるプログラム構成が確立していった。以下に 1997（平成 9）年度から実施されている和歌山信愛女子短期大学附属幼稚園における「総合体育」の実践報告を示した。

2　年間カリキュラム

本園の保育内容の特長として年齢別クラスではなく、1 クラスに 3･4･5 歳児を混合して編成する縦割りのクラスをとっている。従来から「年齢別体操」と称して 1 学期は夏祭りの踊りの練習、2 学期は運動会の練習等を主に行っている。始めは当時の著者の所属やニックネームから「YMCA 体操」や「カルピス先生の体操」と呼ばれていた。2004（平成16）年度から現在園長である Sr.梅木陽子先生からの助言もあり、「年齢別体操」と区別して「総合体育」の名称となった。

最初は年中児、年長児を対象として始まった。2002（平成 14）年度に試験的に土曜日に年少児クラス（希望者）で行った後、2010（平成 22）年度から 3 歳児から 5 歳児までのカリキュラムが通常保育内で実施されることとなった。

「総合体育」の年間カリキュラム（中村,2020）は、原則として幼稚園 3 ヵ年の到達目標とし総合的にプログラム化していくため月別の区分けが無く、子どもの成長とともに柔軟な内容で対処している。以下に具体的に説明する。

2.1　ねらいと留意点

「総合体育」のねらいは、1)健康増進と基礎体力の養成、2)運動能力の向上、3)社会性の向上をめざすことを定めた。また、そのねらいを達成するための留意点として、以下の3点を示した。

1)指示待ちの子どもではなく、主体性のある子どもを育てる。

「次何するの？」ではなく、「次あれしよう。〇〇しないの？」という子どもたちの主体性を育みたい。

2)命令・指示の上位下達、おしつけではなく、指導者自身も同じ仲間となった指導をこころがける。

とかく体育指導やスポーツ指導というと指示命令といった上位下達、おしつけになりがちであるが指導者自身も子どもの目線に立って指導を行う。

3)主体は子どもであり、指導者は援助役として子どもたちを支える。

子どもたちが生き生きとして活動するためにいかにサポート出来るかに主眼を置き、補助でサポートする先生からクラスの子どもの状況を引き継ぎ指導に繋げていく。

2.2　活動の流れ

年長児 50 分、年中児 40 分、年少児 30 分を基準時間とした。大まかな活動の流れとして朝のあいさつから始まり、ウォーミングアップ（準備運動）➔メインプログラム（主運動）➔クーリングダウン（整理運動）の流れで進める。

2.3　到達目標

目標は、原則として幼稚園3カ年の到達目標とし、総合的にプログラム化していくため月別の区分けは無く、子どもの成長と共に柔軟な内容で対処する。

3 歳児の 1 学期はまず園生活に慣れることを目標とし、2 学期から「総合体育」を実施する。基本的動作として「集まる」「模倣」「順番を待つ」に主体を置く。実施回数は年間 11～12 回である。

4 歳児になると「並ぶ・立つ・座るなどの集団行動」「注意力・素早い判断と動作」を基本動作の目標とする。実施回数は年間 25～26 回である。

5歳児では「協調性・リズム感・敏捷性・巧緻性・バランス感覚等の調整力を高める」「柔軟性・空間運動能力・弾力のある筋力を養う」「持久力を高める」「社会性を養う」を目標としプログラムを行う。実施回数は年間 25～26 回である。

2.4　主な活動

ジャンケンや模倣（ごっこ）の子どもの理解力に合わせた簡単なルールにより、「判断する」「理解する」「走る」「かわす」などの要素を取り入れたゲーム(鬼ごっこなど)を通して運動能力を高め、基礎体力を養成するとともに、人の動きを観察し予測し「ルールを守る」「順番を待つ」などの社会性を総合的に育てる。この遊びを子ども達が主体的に行なうことが重要であり、今後の将来的な展望の中で、子ども達自ら遊びを想像し楽しむことができるように成長してくれることを願ってプログラムを立案する。もちろん園庭にある滑り台、ジャングルジム、のぼり棒、ボール等の遊具や鉄棒、跳び箱、マット、平均台などの器具を用いて活動を展開する。このような遊具や器具も単発で利用する（例えば跳び箱の前に並んで指導者の合図で一人跳んでいく、等）のではなく複数のものを組み合わせてサーキット遊びをすることで、子どもたちは飽きのこないプログラム展開が可能となる。

2.5　活動上での特徴

「総合体育」のプログラムの特徴として以下の点が挙げられる。

1)　戸外で活動する。

雨の日以外は基本的に戸外で活動する。戸外の気温の状況にかかわらず実施する。気候の変化を五感で感じることで暑ければシャツを 1 枚脱ぎ、寒ければ 1 枚着るようになる。雨天時も休みではなく、ホール（室内）で行う。

2)　協力し合うこと、応援したり励ましたりする。

年中児後期～年長児にかけて、いつもいる友達だけでなくクラスを超えてグループを作り、協力し合い、応援したり励ましたり出来るようなプログラムを実施している。

3)　サポート体制

本園では縦割りクラス編成のため 1 クラスに 2 名の教員が配置されている。「総合体育」実施時は、その中から 1 名の教員が助手としてサポートする。著者が子ども一人ひとりの状況を把握しているだけでなく、直前の園児の様子が報告されるの

ですぐにプログラムに活かされる。A ちゃんと B ちゃんとが仲たがいをしているとか、C ちゃんが理由があって元気がない等々である。そこで仲良くなるプログラムを提供したり、園児が元気になるプログラムを臨機応変に実施する。単に身体を動かすことだけでなく、幼児の生活全体を通じて指導を行う「総合体育」の大きな特徴である。

3　5 領域から見た「総合体育」

現在の幼稚園教育要領（平成 29 年告示）第 2 章ねらい及び内容から見た「総合体育」の位置づけを表 1 に示した。「総合体育」の年間カリキュラムの活動が、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の 5 領域のそれぞれの内容に該当しているかを検証した。検証した結果、「総合体育」は幼稚園教育要領の 5 領域の内容の 92.3%を占め、5 領域全般に関連していることが示された。また、領域「健康」よりも領域「人間関係」「言葉」の方が「総合体育」の該当項目数が高いことが示された。

表１　「総合体育」と５領域「内容」の項目との関連性

	○	△	×	項目数（合計）	A（%）
健康	7	2	1	10	90.0
人間関係	12	1	0	13	100.0
環境	6	3	2	11	81.8
言葉	7	3	0	10	100.0
表現	2	5	1	8	87.5
合計	34	14	4	52	92.3

○：該当する　△：一部該当する　×：該当しない
A：各領域に占める該当及び一部該当するの割合（%）

4　まとめ

1997 年から実施された和歌山信愛女子短期大学附属幼稚園における「総合体育」を実践報告としてまとめた。今回は、年間カリキュラムにおいてねらいや目標、特徴などを中心とした報告であった。また、「総合体育」は平成 29 年告示の幼稚園教育要領の 5 領域全てにわたって関連性のあることが示された。今後の課題としては、「総合体育」で実施された具体的な活動（プログラム）を詳細に報告することである。

謝辞

今回の研究に協力いただきました歴代の和歌山信愛女子短期大学附属幼稚園の園長先生並びに教職員の先生方へ感謝いたします。

引用・参考文献

厚生労働省（2017）『保育所保育指針』フレーベル館
内閣府　文部科学省　厚生労働省（2017）『幼保連携型認定こども園　教育・保育要領』フレーベル館
中村俊之（2020）「幼稚園年長児における体格と体力・運動測定に関する一考察」『和歌山信愛大学教育学部紀要』第 1 巻　pp.111～116
文部科学省（2017）『幼稚園教育要領』フレーベル館